

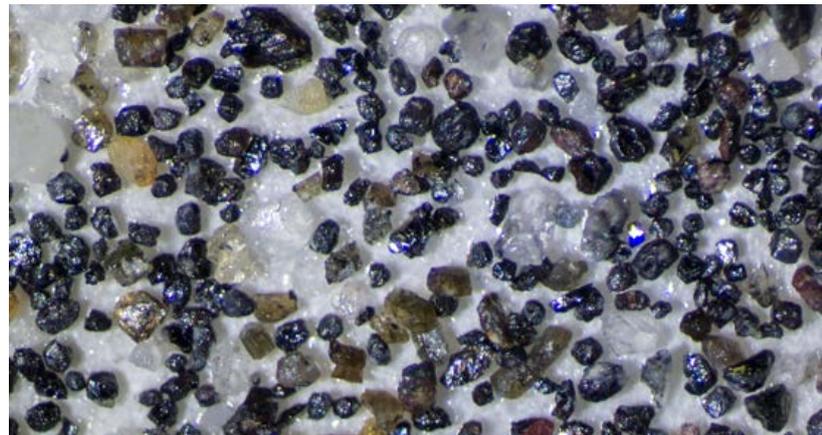
No.434

はまくろさきかいがん すな なかみ  
浜黒崎海岸の砂の中身

海岸、川あるいは学校の砂場まで、身の回りのいろいろな所に「砂」があります。砂をルーペや顕微鏡でのぞいてみてみませんか。場所によってさまざまな特徴があり、おもしろいですよ。今回は、富山市の浜黒崎海岸の砂を紹介いたします。

一般的に、砂は石のかけらや鉱物からなります。場所によってはサンゴや化石のかけらを含むこともあります。どんな石がけずられてできたかによって、砂粒の種類は変わります。浜黒崎海岸の砂を顕微鏡でのぞいてみると、特に多く含まれるのは「石英」と「磁鉄鉱」という鉱物です。磁鉄鉱は、磁石にくっつく性質がある鉱物で、一般に砂鉄とよばれます。浜黒崎海岸の砂は、他の海岸に比べ磁鉄鉱の量が多いので、黒っぽい砂の色をしています。浜黒崎という地名も、この黒っぽい砂浜にちなんで付けられました。なぜ浜黒崎海岸には磁鉄鉱が多いのでしょうか？

浜黒崎海岸の砂は、常願寺川から運ばれてきたもので、上流には立山があります。立山を作っている岩石は主に「花こう岩」です。花こう岩は石英をたくさん含む岩石で、浜黒崎海岸の石英や長石は多くが「花こう岩」に由来します。一方で磁鉄鉱は、「安山岩」など火山の噴火によってできた石に普通に含まれる鉱物です。浜黒崎海岸で磁鉄鉱が多いのは、常願寺川の上流に、立山火山の活動によってできた岩石が多く広がっているからなのです。小さな砂粒もよ〜く見てみると、上流の様子がいろいろわかっておもしろいですよ。(増淵佳子)



浜黒崎海岸と砂(拡大)：無色透明の石英(せきえい)、コロコロとして黒く光る磁鉄鉱(じてっこう)のほか、黄色～褐色の輝石(きせき)、白色の長石、緑～黒色で長方形の角閃石(かくせんせき)、岩片(がんぺん)がみられます。博物館ホームページ※ではカラーで写真を見ることができます。

※科学博物館 HP オンライン図書室「今月の話題」